

| | |
|-----|---|
| 009 | 編集長独白 |
| 011 | 表紙の時計／ロジェ・デュブイ エクスカリバー45 ダブルライニングトゥールビヨンスケルトン |
| 013 | Editor's Choice! |
| 022 | シャネル J12 フライニングトゥールビヨン／オーデマピゲ ロイヤルオーク・オートマテイク／ リシャール・ミル RM 03-01 デイジー・ハンズ／ベル&ロス BR-X1 スケルトンクロノグラフ／ ジラルール・ペルゴ ヴィンテージ 1945 XXL ラージデイト&ムーンフェイズ／ロレックス チェリーニデュアルタイム／ ブレゲ クラシック 9068／F.P.ジュルヌ エレガント／ラルフローレン 867 モダンアールデコウオッチ |
| 022 | 世界は時計で回っている。 |
| 024 | フランクミュラー／ スプリットセコンドダブルフェイスクロノグラフ |
| 024 | ウブロ／ クラシックフュージョンクラシコウルトラシグ |
| 026 | パネライ／ラジオミール 1940 スリーデイズ オートマテイク アッチャイオ&ラジオミール 1940 クロノグラフ オロロツ |
| 028 | シヨパール／ スポーツクロノグラフ |
| 030 | ミツレミア・ウオッチ／グランプリ・モノコウオッチ／スーパーファスト・モデル |
| 032 | ロマン・シエローム／ ベルリンDNAとパットマンDNA |
| 032 | 壁崩壊 25周年と世界的アイコンを讀えて |
| 034 | MB&F／ ホロジカルマシシ6 スペースパイレーツ |
| 034 | 手首に舞い降りた宇宙船 |
| 036 | グラスヒütte・オリジナル／セネタ・クロノグラフ パノラマデイト&セプンティーズ・クロノグラフ |
| 036 | 新開発ムーブメントを搭載したふたつのクロノグラフ |
| 040 | フランパン／ ルブラッシュミニッツリピーター・カルーセル |
| 040 | お家芸を盛り込んだミニッツリピーター |
| 041 | ゼニス／ アカデミー・ジョルジュウェアブルジャコ |
| 041 | 創業150周年を迎え、新たな二歩を踏み出したゼニス |
| 042 | モリス・ラクロア／ マスターピースグラビティ |
| 042 | 時の鼓動に魅せられて |
| 043 | オメガ／ スピードマスタースカイウォーカーX-33 |
| 043 | ESA特許をベースに誕生したX-33第2世代 |
| 044 | シャネル／ J12-G10 |
| 044 | シャネル流に解釈した軍用ストラップを纏ったJ12 |
| 045 | クインテイング／ミステリアスクロノグラフ & ミステリアスカーディナル |
| 045 | サファイアクリスタルの重なりが生む透明の妙 |
| 046 | ヴァンクリーフ&アーペル／ ビエール・アール・ユール・デ・シ・ユール・タイヨール |
| 046 | 優雅にしてユーザーフレンドリーなデュアルタイマー |

047

メイトル・デュタン

異なる才能の出会いが生む創造の力

2005年に創業したメイトル・デュタンは複数の時計師が共同でひとつの時計を作るという異色のコンセプトが注目された。創業から10年の間に3モデルが開発され、バリエーションも誕生している。創業者のステイブ・ホルツマン氏を取材するとともに、3モデル、すなわちチャプター1、チャプター2、チャプター3の概要をみてみたい。

057

【特集】2015 新作情報「ジュネーブ編」

落ち着きのなかの驚き、そして感動

1月19日から23日にかけてジュネーブで開催されたSIHH、WPHH等で発表された新作をブランド別に紹介。コンプリケーション、メティエ・ダール、ジュエリー・ウォッチ、各社それぞれに独自性を発揮する新作から今日のスイス時計の傾向を見てみたい。

090

ロンジンエレガンスの表現 第二回

◆ロンジンヘリテージ1935◆

094

ラドゥーニユートウルグ & クボールクラシック◆

「より多くの人の腕に」を目指す新作

096

セイコープロスペックス マリーンマスター プロフェッショナル 300m 飽和潜水用防水モデル◆

国産ダイバーズ・ウォッチ誕生50周年記念限定モデル

100

腕時計新着情報

108

ブレゲブティック 銀座リニエール・オープン

110

モリッツ・グロスマンブティック

111

ヴァシユロン・コンスタンタン 銀座ブティック

114

サロンドオールージュ

115

グラスヒュッテ・オリジナル ベルリン国際映画祭とのパートナーシップ

116

ジラルール・ベルゴ 墓地整備とフランソワ・ペルゴアワード

117

ヒコ・みづのジュエリー・カレッジ 卒業制作展

118

オメガ 公式認定マスター・コーアクシャル

119

ウブロCEOリカルド・グアダルーペ氏に訊く

120

128 インフォメーション、問い合わせリスト、次号予告

異なる才能の出会いが生む創造の力

メートル・デュ・タン



スイス高級時計の作り手として、それぞれに独自の領域で活躍する時計師たち。その彼らのコラボレーションが話題となった、チャプター1の発表からすでに7年目を迎えた。そしてそれを実現させたステイブ・ホルツマン氏がメートル・デュ・タンを創設して今年10年目となる。日本市場で再び正式に販売が開始される、異色の高級時計の概要をみてみたい。

A.LANGE & SÖHNE

A.ランゲ&ゾーネ

☎A.ランゲ&ゾーネ ☎03-3288-6639

デジタル表示に
ミニッツリピーターを
組み合わせ
独自性を披露

A.ランゲ&ゾーネは毎年のSIHHで必ずひとつの驚きを提供してくれる。そして今年にはデジタル表示のツァイトベルクにミニッツリピーター機構を搭載したモデルが登場した。いわゆる「鳴り物」は2013年に発表したグランドコンプリケーションに見ることができ、ミニッツリピーターのみを備えた複雑時計はA.ランゲ&ゾーネでは初めてとなる。数字で示される時刻を音で確認できる、という他社には見られない特徴がある。

レギュラー・モデルではムーブメントや外装の変更が行われた。



ツァイトヴェルク・ミニッツリピーター

A.ランゲ&ゾーネが披露したのは同社初となるミニッツリピーター。その特徴は一般的なリピーターとは異なり、第2音目は通常のクォーターアワーに代えて10分単位で時刻を知らせる“時+10分+余りの分”というチャイム機構を採用したことで、例えば9時32分には、低音が9回、高音が3回、高音が2回打ち鳴らされる。ベース・ウォッチは1枚の時ディスクと、2枚の分ディスクで時刻表示を行うツァイトヴェルクで、そのゴングとハンマーは文字盤側にセットされる。面白いのはディスクに示された時刻どおりにチャイムが鳴ることで、たとえばスモールセコンドが60秒を超えても分ディスクはそのままの状態を保ち続け、チャイムが鳴り終わったところで次の分へと数字が切り変わる。3気圧防水を備えたプラチナ製の44.2mmケースに搭載されるのは93石、1万8000振動、約36時間のパワーリザーブを備えたCal.L043.5マニュアルで、香箱はリピーター機構と共用する。このため、スタートはプッシュ・ボタン形式が採用されており、さらに専用の安全機構を備える。11月以降の発売予定で、予価は37万ユーロ。

セイコープロスベックスマリーンマスタープロフェッショナル300m飽和潜水防水モデル 国産ダイバーズ・ウォッチ誕生50周年記念限定モデル

セイコーにとって今年には国産初のダイバーズ・ウォッチ誕生から50周年目を祝う年として、記念モデルを発表した。その記念モデルを見るとともに、セイコーのダイバーズ・ウォッチ開発の歩みを改めて振り返ってみたい。

セイコーは初の国産ダイバーズ・ウォッチを発売してから今年で50年目を迎える。ロレックスが100m防水の「サブマリナー」を、そしてブランパンが約90m防水の「フイフティファズムス」を発表したのが1953年のことだから、10余年遅いデビューだった。しかしその後、ダイバーズ・ウォッチに関する技術開発は目覚ましい。

98ページにあるように、1965年にセイコーが発売したダイバーズ・ウォッチ第一号は150m防水で、自動巻きムーブメント、キャリバー6217を搭載していた。ケースはステンレススチール製で風防はカーブタイプの有機ガラスを採用した。この時計は当時は潜水用というよりも、ヘヴィデューティー・ウォッチと受け止められたようで、1966年から4回に渡り、南極観測隊の装備品として寄贈されている。越冬隊は隊員たちが共同で決められた任務を果たすためには、共通の時

刻を必要とすることから時計には高精度が求められた。もちろん南極という環境下では防水性、耐寒性、耐久性は必須で、その要件を満たす信頼に足る時計が、この62系150mダイバーだったという。

その後、セイコーは本格的なダイバーズ・ウォッチの開発を手掛け、後述のように75年に発表した600m防水の飽和潜水時計では外装部品で20件の特許を取得している。

ところで国産初のダイバーズ・ウォッチが誕生した65年当時、ダイバーズ・ウォッチの国内および国際的な定義はなく、JIS（日本工業規格）が第1種空気潜水用、第2種飽和潜水用のダイバーズ・ウォッチの規定を定めたのは93年だった。国際的な基準であるISO（国際標準化機構）はJISの規格を基に規定を定めたが、それはJIS制定から3年後の96年だった。なおISOではJISと異なり、1種と2種の区別は設けられていない。

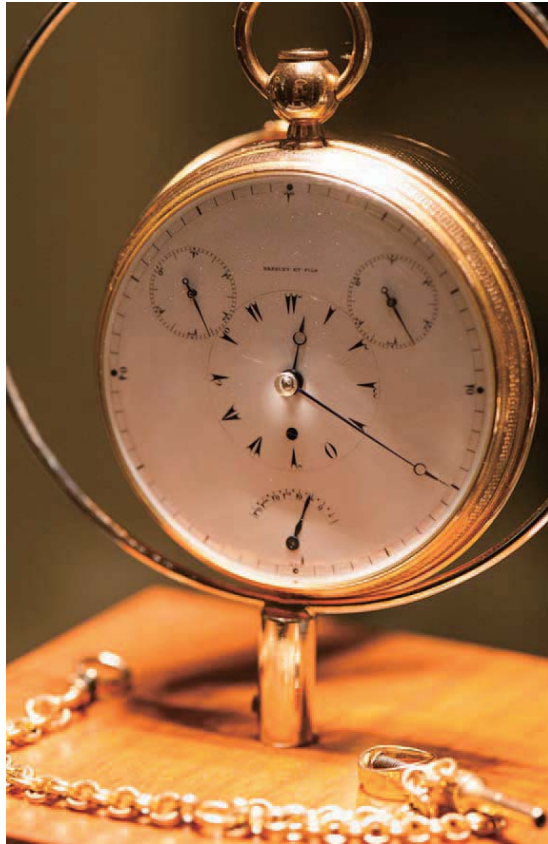
さて50周年を記念する今年、記念モデルとして1月に発売されたモデルが「セイコープロスベックスマリーンプロフェッショナル300m飽和潜水モデル」だ。飽和潜水用では最低200mの潜水に耐えることが条件だが、このモデルではモデル名どおり、300mまでの潜水に耐えることができる。逆回転防止ベゼルを備えていることは言うまでもない。裏蓋のない一体構造のケースやL字型パッキンはセイコーが75年の600m飽和潜水時計で特許を取得した技術で、

ケースの水密性、気密性を高めることで、飽和潜水用だがヘリウムガス排出バルブを備えていない。この点はセイコーのダイバーズ・ウォッチの特徴でもある。デザインは68年に発表した300mダイバーズ・ウォッチ「メカニカルハイビート300m」の文字盤デザインを踏襲し、金色をあしらっている。しかしこのオリジナル・モデルとの違いは今日の技

術で耐傷性、耐色性を高めている点だ。ステンレススチールのケースとブレスレットには表面加工技術「ダイヤシールド」を施し、表面の小傷などを防ぎ、またベゼルの文字は陽極酸化処理で金色に仕上げ、色褪せしにくい。

50周年を記念して300m防水と同時に、200m空気潜水防水モデルの「セイコープロスベックスダイバースキューバ200m空気潜水モデル」も発売された。初代ダイバーズ・ウォッチを踏襲したデザインで、文字盤のインデックスや逆回転防止ベゼルの数字の書体などがこのモデルに近い。ケースとブレスレットはダイヤシールド加工を施したステンレススチールで、ケース・サイズは直径45mm、厚さ13mmで、ムーブメントは自動巻き、キャリバー6R15（23石。毎時2万1600振動。パワーリザーブ約50時間）を搭載する。このモデルは限定2000個で、価格は8万6400円だ。

ブレゲブティック 銀座リニユーアル・オープン 歴史に敬意を表した優美な空間



(写真・上)「ブレゲ No.1188」。アブラアン・ルイ・ブレゲが販売した35個のトゥールビヨンのひとつで、1808年8月1日、スペイン・ブルボン家のドン・アントニオ王子に販売され、彼の死後、トルコ人紳士の手にわたった。直径66mmのゴールド・ケースにはギヨシェが施される。1841年にトルコ人オーナーが新しいエナメル文字盤を注文し、トルコ数字のインデックスに変更された。4分間トゥールビヨン、鎖引き・円錐滑車、スモールセコンド、独立停止秒針、36時間のパワーリザーブ表示という特徴を備える。現行モデルの7047(トラディション トゥールビヨン・フュゼ)の原型ともいえるモデルだ。

(写真・下)「ブレゲ No.4691」。1831年10月13日にフランス在住のイギリス人ヘンリー・セイモア・コンウェイ卿に販売された時計で、ブレゲが製作した薄型時計のなかでも最も複雑なひとつとされる。直径42.6mm、厚さ7.7mmのゴールド・ケースにシルバー文字盤を備える。パラシュート耐振機構を備えたクォーター・リピーター・ウォッチで、文字盤の10時と12時の間に均時差表示、1時と2時の間に日付表示、12時位置にムーンフェイズ、その下にパワーリザーブ表示、3時位置のサブダイヤルでアルファベットの月表示、9時位置にスモールセコンド、6時位置に緩急表示を備える。



東京・銀座のニコラス・G・ハイエックセンター3階にあるブレゲブティックは2007年にオープンしたが、昨年11月28日、数か月の拡張・改装期間を経てリニユーアル・オープンした。

総面積190㎡の広い空間を生かし、以前よりも明るさを感じさせる新しい空間のデザイン・コンセプトは「長い伝統を誇る時計メゾン、ブレゲの時計製造の歴史へのオマージュ」。そこで壁面什器やショーケースのフロストガラスには時計に因んだ装飾が施され、またギヨシェの手動旋盤も常設展示されている。このほかライブラリーコーナーのビデオではブレゲの伝統的な時計技術が映し出され、訪れる人々は彫金、研磨、ギヨシェなど職人たちの高度で繊細な手仕事を画面を通して触れることができる。

リニユーアルによって新しくヴェルサイユ宮殿のプチ・トリアノン宮殿から発想したプライベート・サロンもブティックの奥に誕生した。ハイジュエリー・ウォッチ・コレクションを中心とする空間で、マリリー・アントワネットの肖像や超複雑時計「マリリー・アントワネット」の写真が飾られ、王朝時代の優美な雰囲気再現している。リニユーアルを記念して上の写真にあるアンティーク・ピースが1月末まで展示されたほか、すでに完売だが特別モデル3点も発表された。